

第1回京都市農林振興施設指定管理者選定委員会 摘録

日 時 令和8年7月13日（月）13：30～15：00

場 所 京都市役所 本庁舎地下1階 産業観光局内会議室

出席者 委 員：丘委員長、大石副委員長、篠田委員、高室委員、濱崎委員
事務局：7名

審議内容

1 委員の紹介

2 委員長及び副委員長の選任（委員長に丘委員、副委員長に大石委員を選任）

3 指定管理者の候補者となる団体（指定候補者）の募集要項（案）について

事務局から追加資料「指定管理者制度について」、資料3「選定する施設の概要」、資料4「京都市地域特産物需要拡大センター（ウッディー京北）指定管理者募集要項（案）」、資料5「京都市宇津峡公園指定管理者募集要項（案）」について説明。

<委員意見>

委 員： ウッディー京北は京北地域の玄関口として、京北に来訪者をお迎えするときもお土産を買っていただくなど利用されている。地域の観光拠点として重要だと思っている。

委 員： 地域の方々が連携しながら、観光や地域振興を進めていく拠点になっていると思う。今後、インバウンド需要も増えてくると思うので、京北地域を知らない方にも広く PR していく必要があると思う。道の駅単体ではなく、高雄や日吉など周辺施設や地域資源とも連携して PR していくことが重要ではないかと思う。

委 員： 募集要項ページ4の「自主事業の実施による市民への還元」という項目について、一定以上の収益が出た場合に市民還元策を提案するという内容だが、具体的にはどういうイメージか。

事 務 局： 例えば収益の何%を市へ納付いただくなど、具体的な提案をいただくことを想定している。

委 員： 指定管理期間を4年から5年に延長した理由について、商品開発や地域との関係構築に一定期間が必要という点は理解できるが、1年だけ伸ばされた何らかの根拠はあるか。

事 務 局： 他市町の道の駅やキャンプ場の事例で5年間で最も多かったことも理由である。中長期的な視点で質の高いサービスを提供できるようにするため、今回5年を提案している。

委 員： 組織の世代交代や新しい取組へのインセンティブという観点もあるので、そのバランスは難しいところだと思うが、5年という設定は妥当かと思う。

また、道の駅として地元物産の販売は非常に重要だと思うが、地元出品者による販売状況や推移などのデータはあるか。

事 務 局： 直近の数字で申し上げますと、事業報告の分類別売上では、加工食品、農産

品、木工品、酒類のいずれも売上は増加している。

委員： 宇津峡公園の事業収支だが、利用者数は資料を見ると増えているように見えるが、令和 6 年度から令和 7 年度にかけて収支の方は下がっている。何か原因として考えられることはあるか。

事務局： アウトドア需要についてはコロナ禍の時期にかなり伸びたが、現在は少し落ち着きつつあると考えられる。利用者数の減は課題であると考えている。

委員： 施設の PR とか、魅力発信をしっかりといただいて、利用者数を上げていくことが求められると思う。

4 京都市農林振興施設指定候補者審査項目及び選定基準（案）について

事務局から資料 6「京都市農林振興施設指定候補者審査項目及び選定基準（案）」について説明。

<委員意見>

委員： 危機管理体制についてだが、最近またコロナ感染も増えてきているし、それ以外にも例えば熊の出没などもある。例えばクマよけ鈴のレンタルなど、危機管理の観点で何か取組を提案いただくことも必要ではないかと思う。

事務局： ゴミ管理はかなり徹底されているので、今のところ公園内でのクマ出没などは聞いていないが、課題であると認識している。

委員： また流れが急な場所もあるようで、「子どもから目を離せない場所がある」という口コミも見た。雷や増水なども含めて、そういったリスクへの対応も必要だと思う。

事務局： 選定基準の危機管理の項目の中に、クマや川遊び等に関する安全対策も盛り込む方向で修正する。

委員： 宇津峡公園は利用者数が落ち着いている。料金設定は決して高くはないが、周辺の類似施設との比較という観点も重要。現状は電話での予約のみだが、オンライン予約システムを導入するなど、類似施設のサービスも踏まえた利用率向上の取組は必要だと思う。

委員： 宇津峡公園のアクセスが山道で悪いところもあり、これをカバーする魅力発信が必要。外国人は Google で調べるので、インバウンドにも届く発信ができればよい。

事務局： 選定基準の利用率向上策やサービスの質の向上策の中に、周辺施設との差別化や魅力発信、オンライン予約システムの導入などについて盛り込む方向で修正する。